

二十歳の誓い

私は幼い頃から中学3年生まで、日常生活の全てを水泳選手として過ごし、スポーツや身体を動かすことが私の生きがいでした。そんな中、私が高校1年生の時「化学物質過敏症」という病気を発症しました。消毒液や化学薬品を使用したり触れたりすることで日常生活に大きな支障がでるのです。手や足の筋肉が腫れ、頭痛や腹痛、吐き気や目眩などが起こり、傷みと辛さで泣きながらの苦しい毎日が始まりました。10年間水泳選手として努力してきた結果、水中に含まれる塩素に身体が過敏に反応したのが原因でした。水泳だけでなく、スポーツで身体を動かすことも体育祭への参加もできなくなりました。

そして、新型コロナウイルスが流行している中で、あらゆる場所で使用されるアルコール消毒液により、症状はさらに悪化しました。病気のことを隠しながら学校にも行けなくなり、人と関わることを遠ざけ、自分自身の無力さに夢や意欲が失われていきました。

そんな時、学校に通うことが精一杯だった私に、高校の担任の先生が、生徒会活動とボランティア活動への参加を勧めて下さったのです。ボランティア活動では、地域活性化のために様々な人と協力し、地域のシンボルである竹イルミネーションを造り、多くの人に見に来てもらえるよう、積極的にパンフレット配りも行いました。

地域の方と関わり、人と接する機会が増えるようになると、これまで身体や心の痛みだけに目を向け、暗く狭いところに閉ざされてきた私が、少しずつ「新しい環境」で嬉しさや楽しさを感じるようになり、身体を動かすことで、心が解放されていく自分を実感することが出来ました。

高校三年間を通して、「隠したい」「苦手」とする部分を個性や特性と捉えることで、本当の自分の能力は生まれるのではないかと考えられるようになりました。

現在、私は大学で社会福祉の勉強をしています。京都市民公募委員に就任したことから、私と同じ病気の人だけでなく、子どもやお年寄りなど様々な人にどう手を差し伸べることができるのかを考えています。また、SDGsの問題に取り組むために、学生団体を立ち上げ、古着を活用した事業も展開しています。

かつては病気の現実に背を向け、人には見せることが出来ないと自己解釈していました。ですが、今は自信をもって「化学物質過敏症だ」と言うことが出来ます。この症状を持ったことによって、新しい知識だけでなく、私を支え、関わって下さった全ての皆様に心から感謝しています。そして、私が経験した苦しかったこと、克服したことをこの場で話すことによって、誰かの背中を押すことが出来ればと思います。

私の理想とする「健康的で愛溢れる社会」を実現するために、小さな夢や希望をもつて進んでいくことを「二十歳の誓い」とさせていただきます。

本日は私達のために、このような盛大な記念式典を開催していただき、ありがとうございます。心より御礼申し上げます。